インパクト志向金融宣言

第15回ワーキングレベル会合

2025年7月24日 09:30〜11:30
オンライン・リアル同時開催

インパクト志向金融宣言
Japan Impact-driven Financing Initiative

本日のアジェンダ

1. 定足数確認、議長選出（決議）
2. 新規加盟機関ご挨拶
3. （第1号報告事項）分科会活動報告
4. （第2号報告事項）中期計画の議論
5. （第3号報告事項）その他の報告事項
6. 今後の予定、事務局連絡

(ネットワーキング/ランチ) 11:30～13:00

(参考)

- 12:00~13:30

インパクト志向金融宣言&インパクト投資運用原則　ランチ＆ラウンドテーブル

- 14:30~16:30

「インパクト情報に基づくエンゲージメントの将来～報告規範の活用～」座談会

定足数確認・議長・副議長選出

- 定足数の確認
- 議長の選出（決議）
  - 運営規程第16条に基づき、**運営委員会委員長**の議事運営により、総会の議長を選出する。

新規署名機関の紹介

- 署名機関数は73社（署名金融機関65社、署名協力機関8社）

署名日	署名金融機関	署名協力機関
5月1日付	ー	PwC Japanグループ
6月1日付	Global Mobility Service株式会社	ー
7月1日付	ー	株式会社 エッジ・インターナショナル

議案書

- （第1号報告事項）分科会活動報告
- （第2号報告事項）TOC/中期計画の議論
- （第3号報告事項）その他の報告事項

報告事項

企画チーム・分科会活動報告

分科会	座長
地域金融	金井さん/鄭さん
ソーシャル指標	松原さん/石井さん/朝野さん
VC	堤さん/秦さん
AO/AM	安間さん/（副座長・座長補佐を選任中）
融資・債券	末吉さん/清水さん/橋爪さん
ICEA	安間さん

報告事項

セミナー・イベント（開催済）

主催/共催イベント

日付	タイトル	登録人数（リアル/オンライン）	動画
5月9日	SDG目標達成に向けインパクトのための民間資金の動員と金融イノベーションによるギャップを乗り越える（SDG Impact Finance Initiative (SIFI)）	82(41／41)	
5月28日	グローバルインパクト投資家Lightrock社	98(47／51)	あり
6月5日	DIOM Decentralized Impact Outcomes Marketplace:分散型インパクトアウトカム市場構想について	105(オンラインのみ)	あり
6月6日	GIIN SeanGilbertさんを迎えて『インパクト投資の現在地と今後』を語る会	30(19／11)	
6月30日	シンポジウム『「意図をもつ金融」インパクトファイナンスの未来を拓く - 理論と実践、そして社会変革への展望 - 』	208(79／129)	あり ①②③④
7月2日	GSG Impact JAPAN National Partner （通称：GSG Impact JAPAN）xインパクト宣言ICEA「インパクトとリターン　報告会」	183(オンラインのみ)	あり
7月4日	システムレベル投資：2つの潮流を整理し理解するための勉強会	119(54／65)	あり
7月11日	地域金融機関のためのポジティブ・インパクト・ファイナンスセミナー ～「地域PIF実践ガイダンス」の解説～	173(13／157)	

報告事項

セミナー・イベント（開催済）

Japan Impact-driven Financing Initiative

インパクト志向金融宣言
361 followers
5d •

★イベント実施報告★　6月30日　シンポジウム『意図をもつ金融」インパクトファイナンスの未来を拓く - 理論と実践、そして社会変革への展望 - 』

🍅 インパクト志向金融宣言として出版した書籍の出版シンポジウムを行いました。
💎 水口先生の基調講演の後、第一生命の川西陽介氏 Yosuke Kawanishi、キャピタルメディカベンチャーズの後町陽子氏 Yoko Gocho、GLIN Impact Capitalの中尾有希氏 Yuki Nakao、三菱UFJ信託銀行の道脇祐介氏 Yusuke Michiwaki
SBI新生銀行の石関氏、静岡銀行の鄭氏 Hyunchul Jung、肥後銀行の山中氏をお招きし、暑いディスカッションが繰り広げられました
💡 会場に50人以上、オンラインでは100名近い方にご参加頂きまして、インパクトファイナンスの今と未来を考える時間となりました。

https://lnkd.in/g24PFwpg

Show translation

インパクト志向金融宣言
361 followers
2d •

★イベント開催報告『Impact JAPAN National Partner （通称：GSG Impact JAPAN）xインパクト宣言ICEA「インパクトとリターン報告会」』★

💎 2025年7月2日、表記のタイトルにて、インパクトとリターンの関係性に関する、GSG Impact JAPANの取り組みと、インパクト志向金融宣言の分科会であるインパクト志向企業価値向上アライアンスの取り組みの現状についてご紹介する報告会を行いました。
💡 Nao Sudo (Iwamoto)氏、Katsuji Imata氏、Tomoya Shiraishi氏、Takahisa Watanabe氏、Saori Odera氏によるGSG Impact JAPANの調査チームから、アカデミアにおけるリサーチペーパーを読み込み、勉強会の議論を通じどのような示唆があったのか画共有されました。Sumika Tabara氏からはICEAでの議論の進捗と、現在どのような論点について議論を行っているか、という点の共有がありました。
🍅 120名を超える参加者が参加し、このテーマについての関心の高さがうかがえました。

Show translation

インパクト志向金融宣言
361 followers
1d •

★イベント開催報告システムレベル投資：2つの潮流を整理し理解するための勉強会★

🍅 7月4日に、近年注目が集まっている「システム」に注目した投資についての勉強会を開催しました。講師に、PRI理事の木村武氏 Takeshi Kimura, PwCパートナーの中島崇文氏をお招きし、システムレベル投資とシステム思考を用いた投資について講義頂きました
💡 リアル、オンライン100名以上にご参加を頂き、最新の潮流と、その理解を深める良い機会となりました。

https://lnkd.in/gNZG2cst

Show translation

インパクト志向宣言リンクトインより
★フォローお願いします！★

報告事項

セミナー・イベント（今後予定）

主催/共催イベント

日付	タイトル	備考
7/24	インパクト志向金融宣言&インパクト投資運用原則　ランチ＆ラウンドテーブル	Impact Principles共催
7/24	「インパクト情報に基づくエンゲージメントの将来～報告規範の活用～」座談会	VC分科会・Impact Frontiers共催
7月28日	βアクティビティズムセミナー（Jon Lukomnik 氏とJames P. Hawley氏のよる講演）	宣言主催

報告事項

中期計画策定について

- 別添資料

その他の報告事項

- 運営規則の制定
- 出版企画ご報告
- 入金・予算執行率状況
- PwCプロボノについて

報告事項

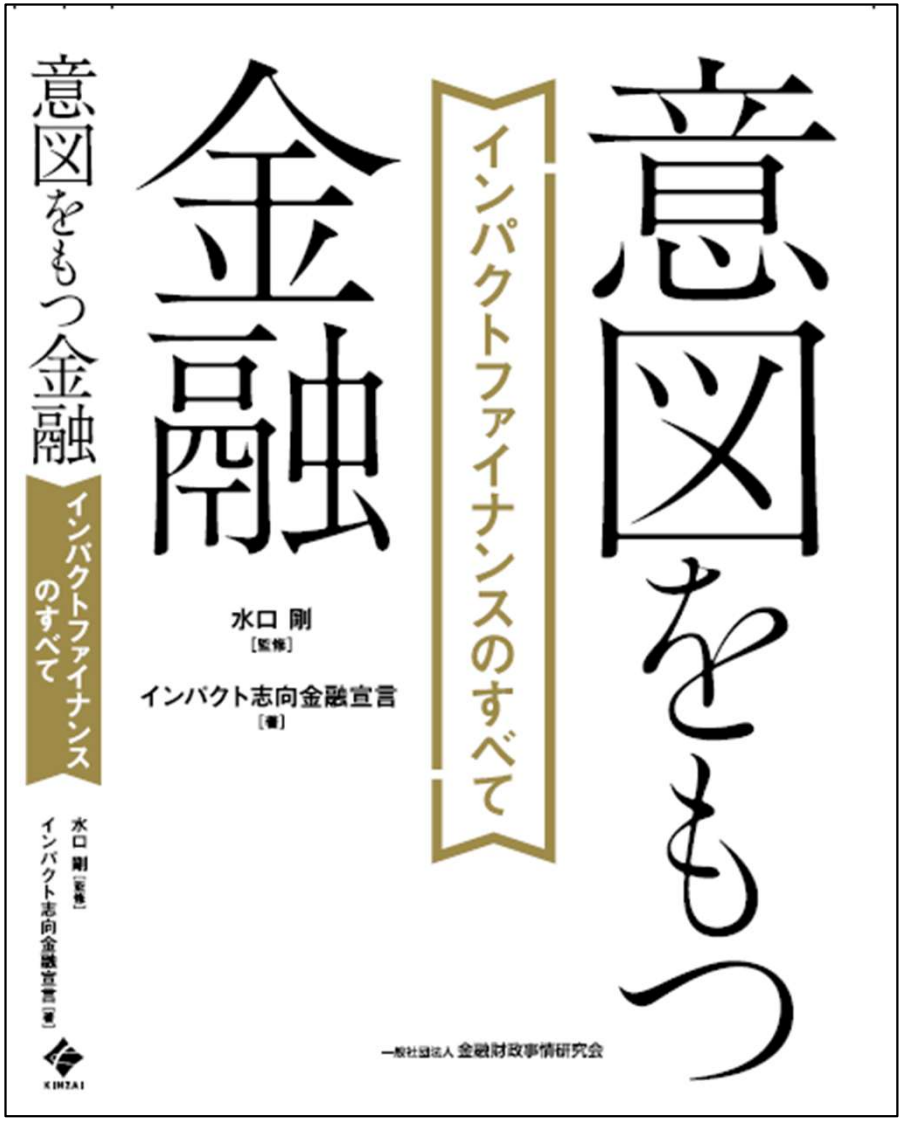
運営規則の制定

- 運営規則第3号（2025年6月19日制定） 登壇および寄稿等に係る対外発信に関する規則
  - 宣言として対外発信するにあたっての基準を定めたもの
- 運営規則第4号（2025年5月19日制定/2025年7月22日修正） 宣言における活動・事業・予算のあり方に関する規則
  - 出版による印税受領に伴い、収支相償・対価収入を伴う個別の活動の原則禁止を定めたもの

第26条（決議事項）
運営委員会は、本宣言の活動を主導的に実行・推進・円滑化するために、本規程及び総会の決議の範囲内で、次に掲げる事項について決議することができる。

11. 本規程の下に位置付けられる「規則」あるいは重要な「活動方針」・「指針」の決定。但し、運営委員会は、第21条第3項の決議を経ることなく、個別の署名機関の義務を強化することはできない。

（参考）
- 運営規則第1号（2025年1月20日制定） 個人情報保護に関する運営規則
- 運営規則第2号（2025年4月24日制定） 対外発信に関する運営規則



水口 剛 監修 インパクト志向金融宣言 著

『意図をもつ金融 —— インパクトファイナンスのすべて』

ご予約申込書

【主要目次（予定）】

序章　インパクトファイナンスとは何か
1　インパクトファイナンスへの注目、なぜ今なのか？
2　インパクトファイナンスの定義
3　インパクトファイナンス市場は４年で 10 倍に
第１章　インパクト志向金融宣言の挑戦
1　インパクト志向金融宣言の立ちあげ
2　動き出したインパクト志向金融宣言
3　インパクト志向金融宣言にかける思い
第２章　インパクトファイナンスをめぐる潮流
1　インパクトファイナンスの国際動向
2　インパクトファイナンスを支える原則類・フレームワーク等
3　日本におけるインパクトファイナンス
4　国際比較からみた日本の特徴
第３章　IMM の理念と実践
1　IMM とは何か
2　IMM の発展と定着
3　IMM の課題
第４章　インパクト志向金融の実践
——ケーススタディ
《未上場株式》キャピタルメディカ・ベンチャーズ／GLIN Impact Capital／第一生命保険／はたらく FUND／UntroD Capital Japan
《上場株式》 かんぽ生命保険・コモンズ投信／三菱 UFJ 信託銀行／りそなアセットマネジメント
《融資》 SBI 新生銀行／三井住友信託銀行／みずほ銀行
《債券》大和証券／ティー・ロウ・プライス
《地域金融》静岡銀行／京都信用金庫／肥後銀行
第５章　インパクトファイナンスを巡る課題
1　インパクトとリターン
2　システムレベルの思考と投資
3　インパクトファイナンスの「連携」
終章　インパクト志向金融が描く未来
1　システムレベルのリスクに挑む
2　金融の再定義
3　インパクト志向が主流の未来に向けて
コラム

出版印税収入

6月　印税　**684,000円**受領済

1,800冊分（3,800円 x 1,800円＝684,000円）

＊「書籍本体価格×刷り部数（実際の刷り部数2000部－在庫見合い200部（注））×印税率（10%）」（注）在庫見合い200部出版者がマーケティングのために使用する分

販売部数　2025年6月末：７８０部

これを受けて、謝金の金額を

1寄稿当たり2万円とし、最大18社、36万円を支払うこととしたい。
（支払い辞退か支払うかはこれから各社に確認）

報告事項

出版印税収入の受領と謝礼の支払いについて

Japan Impact-driven Financing Initiative

2025年4月運営委員会資料

価格および印税の取り扱い

Japan Impact-driven Financing Initi

価格：4,180円（税込） **特別価格3,740円（税込）** ＊チラシ経由
【お申込み・お問合せ】
一般社団法人金融財政事情研究会 出版部（uketsuke-s@kinzai.or.jp）
〒160-8519 東京都新宿区南元町19　TEL 03-3355-2251 ／ FAX 03-3355-1776

著者割（執筆機関）**3,344円（税込）**
- １カ所への搬入の場合は、著者割が適用有
- 宣言事務局（小笠原・三井）経由でお申込みの場合のみ
- お申込みいただいてからお届けするまでには10日前後かかる場合あり

印税の取り扱い：
- 著者＝インパクト宣言
- 本体価格（税別）の１０％
- 寄稿組織への原稿料：売れ行きを見て事後的に決めてから、①辞退、②受け取る、のどちらかを選択していただく。

- 出版企画時点では、印税収入の受領見込み額が不明であったことから、印税の受領後に一定額の謝礼金額を決定し、その額を受領されるか、それとも、ご辞退されるかの意向を、各執筆者に確認する予定であった。
- 今般、印税収入が684,000円と確定したので、謝礼金受領を希望される機関（もしくは執筆者個人）には**2万円の謝礼を支払うこととしたい。**
- 18社あるため、**最大36万円（＋振込手数料）**の支出となる。

（参考）
2025年6月　印税　**684,000円**受領済
内訳：3,800円（税引き単価） x 1,800部 x 10%（印税率）＝684,000円
（注）2000部印刷しているが、200部出版社の在庫見合い（マーケティング等にも使用）

販売部数　2025年6月末：**780部**

報告事項

入金状況及び予算執行率について（2025.7）

Japan Impact-driven Financing Initiative

収支状況（2025年7月20日時点）

収入	**27,514,000**	(A)

会計小科目	支出金額 の SUM
	0
業務委託費ー人件費P	1,639,500
業務委託費ー人件費S	1,354,326
広報費用	253,000
雑収入	0
支払手数料ー銀行振込手数料	4,620
諸会費	360,000
消耗品費	23,100
通信費	127,771
旅費交通費ー近距離交通費	3,594
総計	**3,765,911** (B)
予算執行率（B)/(A)	**13.69%**

未払い組織

- JCR（4月署名/8月中支払い予定）
- PwC（5月署名/8月中支払い予定）

今後支払い予定組織

- グローバルモビリティーサービス（6月署名/7月末期限）
- 株式会社 エッジ・インターナショナル (7月署名/8月末期限）

補足説明

- 「諸会費」はJOIへの支払いだが寄付金にてカバーされるもの
- 出張旅費・会議費は予算設定無・個別の支出実績も無。
- 事務局員6名のうち、安間・小笠原は無給。
- 人件費対象の事務局員4名は、原則として実働ベースでチャージ。
- オフィス無。総会やイベントスペースも無料借用。

報告事項

PwCによるプロボノに関する契約締結について

Japan Impact-driven Financing Initiative

ご支援のスコープ（案）

- 先日小笠原さんにご説明頂いた内容を基に、社内での意向を確認し、人材育成、システムチェンジの2点について関与させて頂ければと考えております。対象領域や支援の方向性について、方向性を議論、合意できますと幸いです。

	人材育成	システムチェンジ
IDFIのニーズ	• Impact Frontiersによってインパクト評価に特化した研修が9月から始まる予定だが、融資、株式投資、上場株投資それぞれのニーズを把握しきれていない。ニーズ調査を行った上で、既存の類似研修と比較し、不足している部分を補完する形で研修を設計することが望ましい。 • IDFIが4月に独立して会費制になったことから、多様な組織からの期待に応える必要があり、会員のエンゲージメント向上にも寄与するテーマでもあり、支援ニーズが高い。 • ご担当は、安間さん、小笠原さん。	• まだ構想段階である。中期計画を作成中で、横断的な分科会の設立を検討している。社会課題マップの作成や、金融の関わり方、システムレベル投資の現状と実践例について調査することから始め、テーマ別分科会を開始することも一案である。 • PRI理事の木村さんがご参画予定。水口先生が人口減少、地域活性化等で課題領域を絞るべきと言う問題意識を持たれており、ご参画される可能性がある。 • ご担当は、安間さんに加えて、ご関心を持つメンバー
我々の想い	• SPDPが目指す初期アウトカム（社会事業者の経営基盤の強靭化）と合致 • 金融機関と幅広い接点を持ち課題感を理解することが、本業の価値向上に繋がる • 組織が大切にしている価値観を広げることにも繋がる、やりがいのある領域	• SPDPが目指す初期アウトカム（ビジネスでリーチできない課題に関わる経験の獲得）と合致 • 今の社会において非常に重要な領域であり、PwCのパーパスにも合致
体制	大須賀、西正、岡田、野崎	早乙女、小野、北原
支援方針（仮）	• 各機関へのヒアリング等を通じて機関種別ごとの人材育成ニーズを可視化。多様な組織からの期待に応える方向性を検討することでIDFI自体のガバナンスや会員のエンゲージメントの強化につなげる	• 大きなテーマであるゆえにScopeの設定が重要 • スポット調査や論点の提示により、活動の背骨を決める議論に参画できれば幸い

追記①：メンバーの稼働は、本業100%に上乗せする形での10%関与となります。すべてのご要望には応えられない場合はご容赦ください。その場合でも、最適な進め方やプロセスを一緒に検討させて頂きます。
追記②：北原・野崎にて携わっている中小企業庁の委託事業（ローカルゼブラ企業推進に向けた調査）にて、未上場の地方創生系企業に向けての地域金融の巻き込みが課題になっています。別途、分科会参加や、キーパーソンとのディスカッションをご依頼させて頂くことがあるかと存じます。その際はどうぞよろしくお願いいたします。

- 今年4月、PwCから意向が示され、宣言の活動をPwCによる公式なプロボノ支援対象として御検討を頂いた
- 事務局より、各分科会の実情も踏まえつつ、潜在的な支援ニーズについて提示をし、先方の社内でのボランティア志望者の関心と人数の集まり具合に基づき、以2スコープに関して具体的な支援が可能であるとのご連絡あり（通常は単一の支援スコープ）
- この前提にて、PwCと正式なプロボノ支援に係る契約締結予定のところご決議頂きたい。
- なお、「システムチェンジ」については内容が幅広いものですので、具体的に何を中心にしていただくか、引き続き先方と議論をしていきたい。

報告事項

インターン/プロボノサポーターによる支援

Japan Impact-driven Financing Initiative

インターン

- 事務局安間・小笠原の元同僚（JBIC）である立教大学村嶋美穂准教授ゼミより7名参加
- （守秘義務契約締結の必要がない）イベントの会場設営、イベント運営、議事録英訳確認、広報用Note記事作成等依頼

【イベントレポート】デット市場におけるエンゲージメントの実践 ～銀行・保険・証券の最前線～

はじめに

本レポートは、2025年1月29日開催～新しいエンゲージメント潮流とインパクトとの接点～の「デット（債券・融資）におけるエンゲージメントの実践事例」をまとめたものです。融資を行う銀行、投資を行うアセットオーナー、債券組成を担う証券会社という異なる立場から、それぞれがどのようにインパクトファイナンスと向き合い、実務の中でエンゲージメントを進めているのかが語られました。（所属・肩書についてはイベント当時のもの）

登壇者紹介

プロボノサポーター

- 5月認定：ヴェリタス・グローバル・コミュニケーションズ合同会社 代表　香川　陽子氏（世銀において長年の評価経験を有する）
- ７月認定　一橋大学大学院博士課程　佐藤真陽氏（事業評価等を専門に研究）

今後の予定、事務局連絡

- **今後のワーキングレベル会合**
  2025年 10月22日（水）
  2026年 1月23日（金）
  2026年 4月
  2026年 7月